

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4070801875		
法人名	有限会社 涼風		
事業所名	グループホーム ウイング		
所在地	福岡県福岡市東区原田4丁目16-1		
自己評価作成日	H22年 10月 19日	評価結果確定日	平成22年11月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念にあるように、「心やさしく おだやかに のんびりと 自分らしく」生活ができるように、個人を尊重し、日々を楽しく健康に過ごして頂けるように、スタッフへ積極的に研修参加を促し、認知症介護に対するレベルUP,スキルUPにつなげている点
--

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域で保育園等を運営する代表が5年前に地元開設したグループホームウイングは、幹線道路に囲まれる流通センター近くにある3階建ての事業所である。屋上から見渡す周囲は集合住宅が建ち並び、新興住宅のイメージも強いが、地域の高齢化率や高齢者のみの世帯率は比較的高くなっている。この実情とは相反して半径1キロ範囲には介護サービス事業所がほとんどなく、地域の高齢者施設として貴重な存在となっている。事業所では、家庭的な雰囲気の中、利用者が「自分らしく」暮せる支援に努めている。本年度は、夜間入浴への取組みや職員研修の充実や、キーパーソン不在の利用者への行政と連携しての支援事例も見られた。今後とも事業所の内外を問わず地域の高齢者支援の拠点としての展開が期待できる事業所である。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 福岡市社会福祉協議会 介護サービス評価センターふくおか		
所在地	福岡市中央区荒戸3丁目3番39号 福岡市市民福祉プラザ		
訪問調査日	平成22年11月4日		

〔セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。〕

自己評価および外部評価票

ユニット名: 1 F

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念として「心やさしく おだやかに のんびりと自分らしく」を掲げ、基本方針では「地域とのふれあいを大切にします」と掲示し、毎朝申し送り後に唱和を行い、常に念頭に入れ業務を行っている。	開設当時に作成した理念に加えて、地域とのかかわりについても基本方針として掲げている。毎朝、唱和を行い、常に理念を念頭において支援にあたっている。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	子ども会の廃品回収に新聞やダンボールを出したり、夏祭りや敬老会等の行事に自治会や老人会また地域の方々を招待している。また、散歩や買い物等に出掛けたときはこちらから挨拶するよう努めている。	地域行事やホーム行事にて相互に交流する機会を確保している。また、町内の子ども会の廃品回収の参加や、散歩時の挨拶等、日常的なかかわりを通じて親交を深めている。	現在、小中学校の職場体験等の受け入れを計画しておられます。今後も幅広い世代との地域交流への取り組みを期待します。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議では事業所の状況報告を行ったり、老人会や民生委員の方々からの相談を聞いて対応するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では外部評価の結果を報告したり、利用者の状況報告や活動報告を行い参加者の方々より意見を頂いている。	家族、民生委員、いきいきセンターふくおかの職員を招いて2ヶ月毎に開催している。会議ではホームの状況や行事の説明や災害時の協力体制、地域高齢者にまつわる話題や成年後見制度等について質疑応答や協議がなされている。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には地域包括センターから参加して頂いたり、市町村の生活保護課や介護保険課の担当者とはまめに連絡を取り合っている。	運営推進会議にはいきいきセンターふくおからの参加がある。また生活保護受給者の受け入れや成年後見制度の利用支援を通じて、行政担当者との相談等密に連絡をとっている。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の外部研修に参加したり、ホーム内では、身体拘束となる言葉かけや鍵の施錠などが行われていないか、フロア会議で適宜話し合っている。	毎年の研修計画に位置付け、日常的なケアの中で、スピーチロックや行動制限等、身体拘束にあたるか否かについて話し合う機会を設け、職員全体で啓発する機会を確保している。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待などの新聞記事を切り抜き、全職員に回覧してもらっている。また、外部の研修に参加してもらい理解を深めてもらっている。日頃より職員同士で注意し合える関係作りにも努めている。		
8	6	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部の研修に参加し、資料をレポートと一緒に提出してもらい、休憩室等で閲覧できるようにしている。また、現在成年後見制度を利用されている方が居る為、その都度経過を全体会議などで報告している。	外部研修への参加と同時に、ホーム内での勉強会を実施している。また半年に渡る成年後見制度(市長申し立て)の活用支援を通じて、関係者や事業所全体で制度の理解と普及に努めた。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は書面と口頭で説明を行い、家族・利用者とは話し合う時間を十分とって、不安の解消に努めている。		
10	7	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に利用者やご家族が、出席し外部に意見を伝える機会を作っている。利用者や家族の意見に耳を傾け、苦情、不満があった場合は全職員で話し合いを行い対応するよう心がけている。また 相談、苦情受け付けの窓口を、重要事項説明書とホーム玄	利用者や家族とは傾聴や面会の機会を確保し、意見や要望、苦情等を表出しやすい雰囲気づくりに努めている。意見や要望、苦情等の申し出や意見箱への投書に対しては、内容に応じてその場での回答や、職員会議で検討後、回答するなどの取組みがある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月全体会議とフロア会議を実施し、職員の提案や意見を聞いている。また管理者が個別面談を行いゆっくりと話が出来る時間を作っている。	全体会議や個別面談を通じて、職員の意見や要望を汲み取れるように努めている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、日常的に意見や提案を聞きながら常に施設にとって良い方向に反映させるように就業環境の整備に努めている。		
13	9	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	面接に関しては、希望があれば全員対応しており、年齢や性別の制限は設けていない。経験や趣味を生かして働いていただけるよう配慮している。	職員採用においては、年齢や性別、資格や経験の有無等の制限は設けず、ホーム理念への共感や人間性等を重視し、3ヶ月の試用期間を経て本採用としている。就職後は、資格取得やプライベートの充実に向けて勤務調整等に努めている。また、研修参加は勤務扱いとし、食事代の補助等の実績も見られた。	
14	10	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	外部研修に参加して理解を深めてもらっている。また、会議の中で言葉遣いや接し方、認知症に対する対応などを見つめなおす機会を作っている。	高齢者にまつわる虐待防止や権利擁護等の勉強会に加えて、事業所連絡協議会主催で開催される研修にも人権学習を位置付け、職員が交代で参加している。また、受講報告会を実施する等、様々なテーマにおいての人権教育や啓発に取り組んでいる。	
15		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の参加、新人研修の参加と段階に応じて行っている。 資格を持っていない職員にはヘルパー2級の資格を取得するよう勧め勤務等も配慮している。		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホーム協議会の勉強会や交流会に参加し、意見交換を行っている。 また、今年6月には地域の高齢者施設と合同の運動会に参加を行った。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には必ず見学や面談にてご本人とお会いし直接状況の聞き取りを行うようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	問合せの際や面談時にご家族の思いをしっかり聞き取っている。 また、本人の前で話せない事などは、席を変えて話を聞く様に配慮している。		
19		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	問合せや面談の時点で、体験入所を含めたお話しをしている。また、状況によっては、ご本人に合った他の事業所を紹介をさせて頂く場合もある。		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の能力に応じて、出来る事は一緒に行いながら、会話や表情を見て一緒に笑ったり、喜んだりしている。		
21		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	外出や面会をお願いしたり、受診に関しても出来るだけ家族の付き添いをお願いし、出来るだけホームに足を運んで頂けるようにしている。また、お互いいろんな話をしながら交流を図っている。		
22	11	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の希望があれば家族の協力を得て馴染みの場所に連れて行ってもらったり、可能であれば職員で対応を行っている。	美容室や趣味活動等、利用者の趣味や習慣等が継続出来る様に、家族と連携しながら支援している。	
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格や症状に合わせて、席替えや居室移動を行っている。必要に応じて職員が間に入っている。 また、日頃のレクレーションを通じてお互いが交流を図り関係を築いている。		
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居先の関係者から連絡があった際に、様子を伺ったり、時として退去先に訪問を行っている。また、ご家族によっては退去後も連絡を行い、相談・支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族の希望を聞き、それに基づき、納得出来る生活が出来る様に支援をしている	契約時の聞き取りにより、生活歴等を含むアセスメントの概要をまとめ、記録や会議等での周知や情報交換を行い、職員全員で利用者の意向を把握している。入居後も、日常の会話や様々な場面を通じて、本人の思いを押し量れるように取り組んでいる。	
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時にアセスメントをとり、生活歴、家庭環境等の把握に努めている		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	細やかな記録で健康状態やニーズを把握し、コミュニケーションを取り、より深く、入居者の現状を把握するように努めている		
28	13	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回フロアミーティングを開催し、月評価、カンファレンスを行っている。入居者担当を決め、他のスタッフからの意見も取り入れ、アセスメント表も作成している	毎月のカンファレンスを実施し、全ての利用者についての情報交換や確認及びモニタリングを行い、記録している。評価、介護計画の見直しは、3ヶ月毎に行っている。また、心身状況に変化が生じた際もその都度対応し、関係者で話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録や気づきも含めて、スタッフ間での申し送りや申し送り表、ケアプランチェックにて、情報を共有し、見直しを行っている		
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診は基本的にご家族にお願いしているが、状況によりスタッフが付きそうなど柔軟な対応を心がけている		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	2ヶ月に1回の町内の廃品回収に参加し、その他にも、リサイクルボックスを活用している。また、2ヶ月に1回運営推進会議の実施をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32	14	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時にかかりつけ医がある場合は、病状に合わせて受診を行えるようにホームのかかりつけ医と連携をとって頂いている	契約時に医療・受診等について説明し、利用者・家族が入居後の主治医を選択している。現在は医療機関との往診を中心に、歯科医の定期検診、総合病院の受診や入院時の情報提供等、全般的に利用者への受診支援を実施している。	
33		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	2週間に1回の往診時の看護師は決まっており、往診日以外でも密に電話連絡を行っている		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は面会に行き状態の把握に努めている。退院時医師との話し合いも家族了解の元同席している。又、協力医療機関の地域連携室とも関係づくりを行っている		
35	15	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合における指針を契約時に予め説明し、同意を得た上でホームで出来る最大限のケアをかかりつけ医、ご家族と相談し行っている	重度化や看取りについては、契約時に予め対応できる方針を説明し、利用者の身体状況に応じて主治医や関係者で協議し、情報や支援方針を共有する支援体制がある。キールソン不在の利用者の意向について職員全体で話し合い、看取りに取り組んだ事例も見られた。	
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時のマニュアルを誰でも見える場所に設置しており、職員全員が救急救命講習会を受講し、年二回の消防訓練には入居者も参加している。AEDの設置をしている。		
37	16	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を入居者もスタッフも全員参加で行なっている。夜間設定での避難訓練や水害訓練も実施。又、市や県からの災害の指示、勧告がある際は全員に見える所に掲示するようにしている	年2回の消防署の指導による避難訓練や夜間想定訓練を実施している。去年の水害も被災しており運営推進会議時には非常災害時の地域との協力体制について協議する等の取組みがある。	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人記録等は外から見えないようにし、決まった場所に保管している。入居者の尊厳を大切に、日々の業務にあたっている	言葉かけやプライバシーに配慮しながら、より良いコミュニケーションが取れるように、内部勉強会や啓発する機会を確保し、対応している。個人情報に関する記録等は、契約時に利用者・家族にも説明し、了承を得た上で事務所に適切に管理されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々の希望や訴えを聞き、なるべく添えるように働きかけているが、訴えの無い入居者にたいしては、表情等で希望を汲み取り支援している		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れは決まってはいるが、入居者の体調や気持ち等を考慮し一人ひとりのペースに合わせて支援している		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	二ヶ月に1回のペースで訪問理美容にて散髪、顔そりを行っている。男性の入居者の場合は毎朝介助にて髭剃りを行っている。また、TPOに応じた服装をしてもらえるように心がけている		
42	18	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理、盛り付け、下膳は出来る範囲でして頂く様心がけている。お膳拭きは出来る入居者に毎食後、交替で協力していただいている。食事の献立は入居者のリクエストも取り入れる様にしている	栄養バランスや利用者の好み等を取り入れ、買物準備、調理、配膳等を職員と利用者が協力して行っている。また、職員の食事代を助成し、利用者と職員が同じ食事をとれるように配慮しており、調査当日も利用者と同じ昼食を楽しむ様子が伺えた。	
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	持病等に応じて、食事量の調節を行い、摂取量も確認している。水分の摂取量が不足しないように、10時と15時に配茶し、また、常時麦茶入りのペットボトルを各自に用意している		
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	週に一度歯科往診があり、口腔ケア、義歯調整を行っている。食後には、口腔ケアの声掛けや介助が必要な方には、支援し、清潔保持に努めている。夜は義歯を預かり、洗浄している		
45	19	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表の活用で、排泄のパターンに努め支援している。リハパン、パット使用の方も日中はトイレでの排泄を援助している	利用者毎の排泄パターンを把握し、介護計画書に位置付け個別に支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬だけに頼らず、食物、水分、体操と日常生活でも心がけている。排泄表を確認し腸音を聞いたり、腹圧をかけたたりと便秘の予防をしている。また、毎朝、バイタル測定時確認し、介助を要する入居者には、下剤等に対応している		
47	20	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴者に希望に応じ、月2回であるが、夜間入浴の実施を開始した。それ以外の日は日中の入浴となっている	毎日入浴できるように準備し、利用者の希望に沿って支援している。入浴を好まれない方でも、週2、3回の入浴を勧め、定期的な清潔保持の機会を確保している。また、本年度より、月2回は就寝前に入浴できるように支援している。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ソファで過ごされている方が多く、同じ姿勢が続く方には臥床休息の声掛けを行っている。一日中ソファにて過ごされる方には両足を挙上を促している		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬のないように与薬時は日付と名前を口頭で確認。薬の変化時はスタッフ間で申し送り、把握し、体調の変化に気をつけるようにしている。体調変化時は細やかに記録し、かかりつけ医に連絡している。		
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	自分で出来ることは、なるべく行っていただくように見守りを行っている。気分転換も兼ねた外食の機会を増やすなどして、楽しみごとへの支援は、少しずつ充実したものになってきている		
51	21	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物などの外出は、その日の状況で支援している。他にも季節に応じた外出先を選び、ドライブやイベント先など外出支援している	花見や行楽など定期的に計画立てての外出のほかに、日常的な散歩や買い物をかねたドライブ等、可能なかぎり実施している。	現在の外出支援に加えて、家族も含めて全員で外出する機会の確保は、利用者、家族、職員同士の一体感と生活意欲を高める有効な手段であると思われます。「年に一度」というような具体的な目標をたて実現に向けての取組みを期待します。
52		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理ができる方は自分でお金を所持されており買い物、支払いをされている。また、普段お金を持っていない方も外出先では自分の好きなおやつなど、決まった金額の中で買い物をスタッフと共にすることもある		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族から入居者へ電話があるときは、取次を行っている。また、入居者の希望に応じてご家族の承諾の元、電話はかけられる様になっている。また、入居者によっては、手紙を書かれる方もいる為、支援している		
54	22	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合った飾り物や花などを使用し、玄関やフロアを飾っている。天気や気温をみて、窓を開け、外の空気を取り込んでいる。	リビング、廊下には利用者の書道の作品や生花、外出時のスナップ写真等が飾られ、家庭的で和やかな雰囲気となっている。また、屋上やウッドデッキで気軽に屋外の空気に触れることができるようになっている。	
55		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	車椅子の入居者がいるため、通路を広く確保していると共に、ソファ、テーブル、椅子を各所に置き、自由に過ごして頂けるように配慮している。		
56	23	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に家族や本人と相談し、以前から使用していた家具や寝具を使用してもらっている。又、写真等も飾り心地よい空間になるように工夫している	ユニット毎にトイレ設備や広さ等の違いはあるが、クローゼットが設備され、全体的に広く、落ち着いた雰囲気のつくりとなっている。寝具や調度品、写真、ソファ、イス、仏壇等、利用者にとって馴染みの物が持ち込まれ、安全かつ居心地良く過ごせるように配置されている。	
57		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分の居室やトイレを迷わないように、表札、貼り紙をかけてある。トイレや浴室は必要に応じ手すり等を増設し、環境整備に取り組んでいる		

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	1. ほぼ全ての利用者の	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,21)	1. ほぼ全ての家族と
		2. 利用者の2/3くらい			2. 家族の2/3くらいと
		3. 利用者の1/3くらい			3. 家族の1/3くらいと
		4. ほとんど掴んでいない			4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	1. 毎日ある	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	1. ほぼ毎日のように
		2. 数日に1回程度ある			2. 数日に1回程度
		3. たまにある			3. たまに
		4. ほとんどない			4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	1. ほぼ全ての利用者が	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 少しずつ増えている
		3. 利用者の1/3くらいが			3. あまり増えていない
		4. ほとんどいない			4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 職員の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 職員の1/3くらいが
		4. ほとんどいない			4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	1. ほぼ全ての利用者が	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 利用者の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 利用者の1/3くらいが
		4. ほとんどいない			4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	1. ほぼ全ての利用者が	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 家族等の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 家族等の1/3くらいが
		4. ほとんどいない			4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	1. ほぼ全ての利用者が			
		2. 利用者の2/3くらいが			
		3. 利用者の1/3くらいが			
		4. ほとんどいない			